

令和5年度市立稚内病院医療事故等の公表について

1. 目的

当院では、地域住民から信頼され安心して医療を受けていただけるよう、院内で発生した医療上の事故等の事案について、情報提供を行っております。医療の透明性を高めるとともに社会的責任を果たし、再発防止に資すること、および医療安全管理体制の徹底を図り、地域住民からの信頼性の向上を図ることを目的としています。

2. インシデント・医療事故報告書の必要性について

大きな事故を防ぐために、人間は自らの注意だけに頼るのではなく、いくつかの防御網を作って事故を防ごうとしますが、それでもその目をすり抜けて事故は発生します。幸い大きな事故には繋がらなかったけれども、ヒヤリとしたりハッとするような事柄が、その防御網に留まる事で何が問題かを教えてくれます。

当院では医療に伴う有害事象やヒヤリ・ハット事例などを可能な限り収集し、その要因を調べ、問題点や改善点を明確にし、事故防止対策の有用性につなげています。

■ 医療事故等のレベル基準

- ・ インシデントとは、医療従事者が日常の現場で“ヒヤリ”としたり、“ハッ”とした経験で、そのままにしておくと事故に発展する可能性を秘めているものをいいます。
 - ・ 医療事故（アクシデント）とは、医療に関わる場所において発生する事故の総称で、医療従事者が被害者となる場合や廊下で転倒した場合なども含まれます。
- このうち、医療従事者の過失の存在を前提としたものを医療過誤といいます。

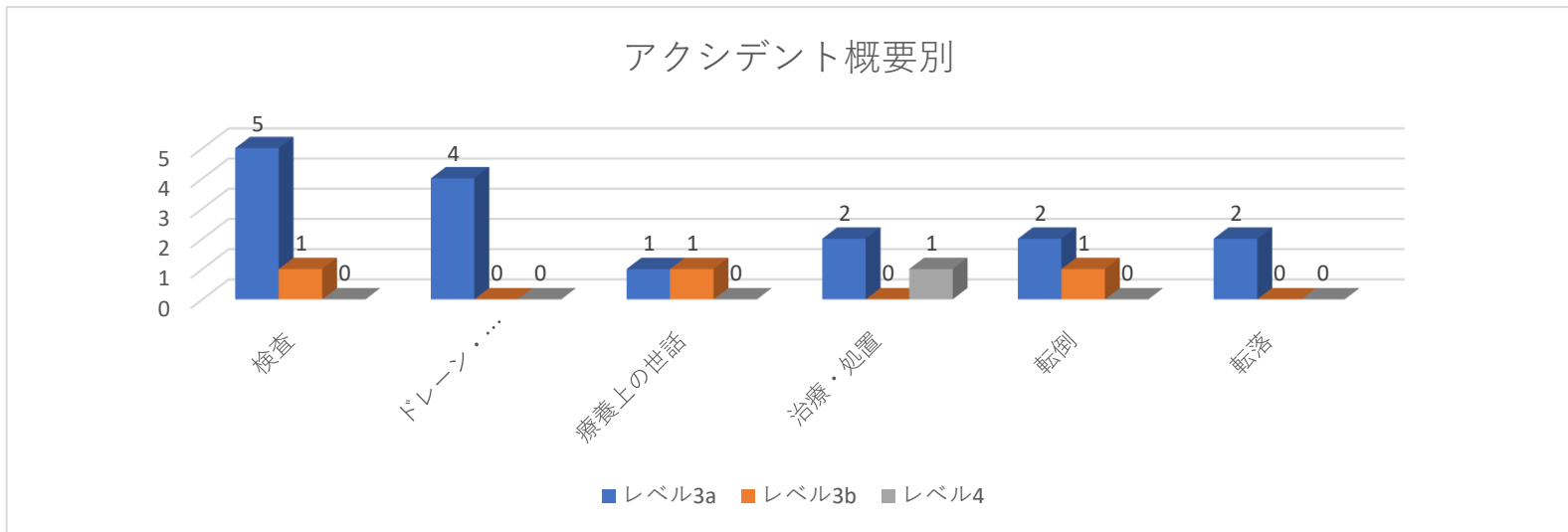
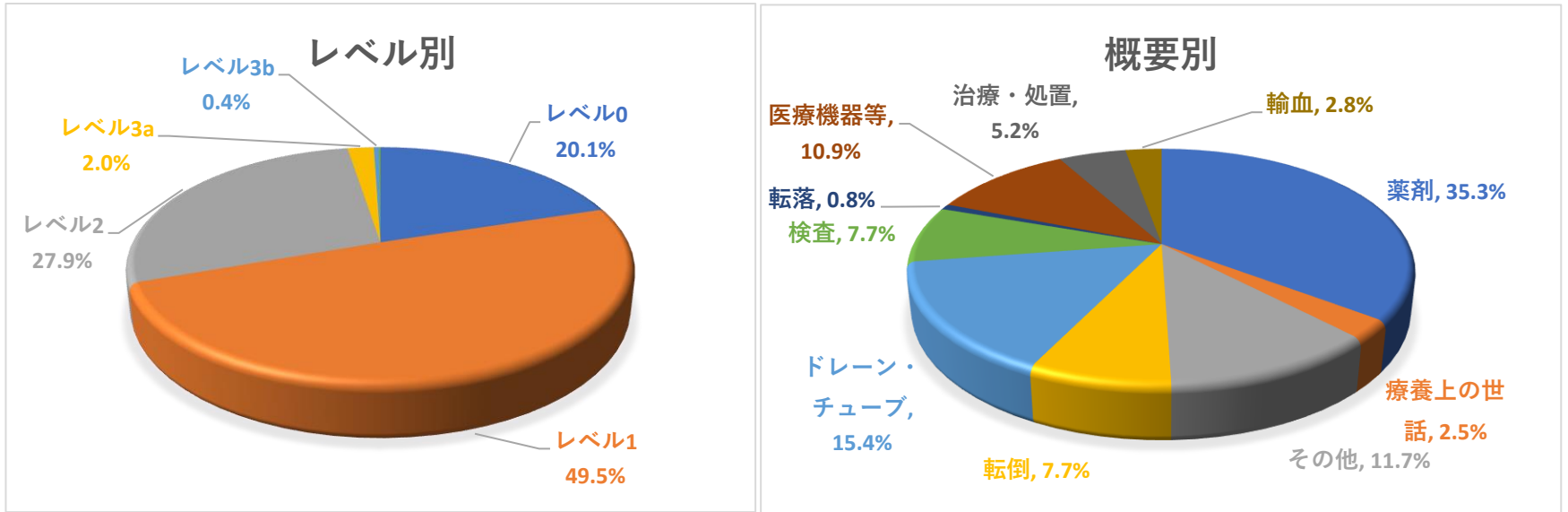
レベル区分		レベル判断基準
インシデント	レベル0	ヒヤリ・ハット（間違ったことが実施される前に気付いた事例）
	レベル1	間違ったことが実施されたが、変化が生じなかった事例
	レベル2	確認のための検査、観察を要した事例（治療の必要性は生じなかった）
（医療事故）	レベル3a	簡単な処置や治療を要した事例（消毒・湿布・皮膚の縫合・鎮痛剤の投与など）
	レベル3b	濃厚な処置や治療を要した事例（バイタルサインの高度変化・人工呼吸器の装着・手術・入院日数の延長・外来患者の入院・骨折など）
	レベル4	事故により障害が残った事例（永続的な障害や後遺症が残った）
	レベル5	事故により死亡した事例

3. 令和5年度レベル別報告枚数

当院では全職員にレベル0（ヒヤリ・ハット事例）からの報告書を積極的に提出してもらい、その背景と問題点を分析・検討し、安全な医療を提供するためのシステム作りに役立てています。

令和5年度のインシデント・医療事故等の報告枚数は788枚で、令和4年度（714枚）と比較すると10.4%の増となりました。レベル別では、実害の伴わないインシデントレベル0～2が768枚で全体の97.5%を占めています。検査・治療を要すレベル3a以上は20枚と全体の2.5%となっており、簡単な処置を必要とする3aは16枚で、検査が5枚、ドレーン・チューブが4枚で上位を占めています。濃厚な処置を必要とする3bは3枚、永続的な障害や後遺症が残ったレベル4は1枚報告されています。

概要別では、薬剤が全体の35.3%と上位ですが、実害を伴う事象はありません。



上記の表からは検査、療養上の世話、転倒が濃厚な処置が必要なレベル3bにつながる可以看出ます。

4. 過去3か年のレベル別報告数の推移

